

MACF イースター礼拝説教要旨

2020.04.12

【復活による希望】

1) 自然の営みの中では

旧約聖書ダニエル書には

「神の御名をたたえよ、世々としえに。知恵と力は神のもの。神は時を移し、季節を変え／王を退け、王を立て／知者に知恵を、識者に知識を与えられる。」(ダニエル 2:20-21) と書かれていますが、神は季節を変えることで植物などの「死と再生」を繰り返し教えておられます。

日本の格言にある「冬来たりなば春遠からじ」という言葉は、まさにそれを理解している言葉でしょう。

岡林信康さんが歌った「嘆きの淵にある時も」という歌詞はそれを歌い上げています。

+++

【嘆きの淵にある時も】岡林信康

果てない雪に立ち尽くして
歩むことさえ かなわぬまま
望みも今は雪に埋もれて
全てのものが死に絶える時
季節の流れ瞳こらし 命の言葉聞きとるなら
重たい雪の下ではすでに
息づく緑ささやくように
望みがこの大いなる 命の流れに沿うものなら
かなわぬ事がなぜあるだろう
実らぬことがなぜあるだろう

春に枯葉は舞い踊らず 秋に緑の芽はふかない
夏に裸の梢を知らず 冬に花びら咲くこともない
季節の流れ瞳こらし 命の言葉聞きとるなら
全てを委ねこの身を任す
たとえ行く手が見えない時も
望みがこの大いなる 命の流れに沿うものなら
かなわぬ事がなぜあるだろう
実らぬことがなぜあるだろう

かなわぬ事がなぜあるだろう

実らぬことがなぜあるだろう

+++

私達はあまり抵抗を感じずに、自然の営みにおける「死と再生」について信じています。

2) キリストによる復活

いろいろな式に参列して、いろいろなスピーチを耳にしますが、その中で多いのが、「健康に注意するように」という内容です。もっと言えば、「健康を損ねたらもう希望はない」というようなものまであります。

確かに健康は大事です。健康が損なわれたら確かに不自由ですし、大変です。でも、本当はそこにも隠されたしあわせがあるのではないかと私は感じています。健康を損ねたものにしかわからないものってあるような気がします。

にもかかわらず、私たちは、あまり「生きていることのうれしさ、貴重さ」を感じずに生きています。人の死を、あくまでも他人事のように感じながら生きています。

しかし、考えようによっては、「死はいつでも、どこにでも身近にある現実です。」病気や事故からの死はいつでも、起こる可能性があります。死と命について考えることは大事なことです。この度の新型コロナウイルス感染についての大きな出来事は、私たちに「身近にある死」を教えてくれています。

さて、聖書では、ふたつのいのちと二つの死について教えています。

この生身のからだの「死と命」。そして霊的な意味での死と命です。私たちは、生身のからだの死と命については興味を持ち、病名をさぐり、薬を探します。しかし、霊的ないのちと死についてはあまり興味を持たないようです。実は、霊的ないのちと死は、肉体的な死といのちと関係がないよう考えられていますが、決してそんなことはありません。

せん。

霊的な意味での死と命をはっきりと知ってくると、生身の人生をどう生かすべきなのか、生身の体の死をどう理解すべきなのかわかってくるのです。

聖書は「この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。」と語り、キリストにはいのちがあることを教えています。肉体的な問題について、キリストにこそ「いのち」があり、霊的な面についても、キリストにこそ「いのち」があるのです。キリストは、病める人たちをそのいのちで癒しました。キリストは、霊的に死んでいる人をそのいのちで生かすことができるのです。

ペトロはこう語っています。

「2:22 イスラエルの人たち、これから話すことを聞いてください。ナザレの人イエスこそ、神から遣わされた方です。神は、イエスを通してあなたがたの間で行われた奇跡と、不思議な業と、しるしとによって、そのことをあなたがたに証明なさいました。あなたがた自身が既に知っているとおりです。

2:23 このイエスを神は、お定めになった計画により、あらかじめご存じのうえで、あなたがたに引き渡されたのですが、あなたがたは律法を知らない者たちの手を借りて、十字架につけて殺してしまったのです。

2:24 しかし、神はこのイエスを死の苦しみから解放して、復活させられました。イエスが死に支配されたままでおられるなどということは、ありえなかったからです。」（使徒 2 章 22-24）

つまりキリストは、彼が救い主であり、主であり、罪を処理し、死のちからを打ち破る力を持っていることの証しとして父なる神が復活させたのです。

いのちが絶えたように見える冬の次にはいのち溢

れる春が来るように、神は、私たちがそういうサイクルを経験できるようにキリストを間に立て、キリストを裁き、キリストを死なせることによって、私達が赦され、私たちが生きる道を供えてくださったのです。

そして、まさに、そのことの証しこそ、「復活」なのです。

イエスキリスト御自身の言葉はこうです。ヨハネによる福音書 11 章です。

11:25 イエスは言われた。「わたしは復活であり、命である。わたしを信じる者は、死んでも生きる。

11:26 生きていてわたしを信じる者はだれも、決して死ぬことはない。このことを信じるか。」

弟子たちの宣教活動の中心的なメッセージは「イエスは主であり、復活された救い主だ」ということでした。

3) 人は誰でも

人は誰でも肉体の死を経験します。これは誰でも、すべての人に共通しています。

しかし、キリストの死と復活によって、肉体の死で終わらないことが明確に教えられました。

「死んでも生きる」という希望が与えられたからです。

この地上で苦しい冬を通過中だとしても、必ずこの地上でか、あるいは霊的な世界でかわかりませんが、冬のあとに春が必ずやってくるように、神は復活の喜びをどこかで必ず用意しておられます。

死は地上の生活の終わりではありますが、神との関係においてはある意味では新しい始まりです。

そこでいのちを味わえるか、そうでないか、それは生きている今しっかり考え、しっかり確認しておく必要があります。そこで確信がもてるなら、精一杯、死ぬ日まで恐れることなく、人生をのびのび生きることができるからです。

復活の祝福は間違いなく、あなたにも届いている

のです。

それを知らないまま生きるのは大きな損失です。主イエスはあなたのために死なれ、あなたのために甦られたからです。

「というのは、死がひとりの人を通して来たように、死者の復活もひとりの人を通して来たからです。」

(1 コリ 15:21) とパウロが書いているとおりです。

よみがえられ、死に打ち勝ったイエス様がおられるので、そのお方によって肉体的な死はすでに乗り越えられている、つまり信じるものは、肉体的な死によって滅ぼされたり、絶望状態に置かれたりすることはないということです。

今、しばらくの間、わたしたちは病気や困難に悩まされますが、すでにそういう肉体的な死はイエス様によって知られ、イエス様によって克服されていますので信じるものには希望があるのです。私たちにとっての死は、残されたものにとっては、寂しいものではありませんが、キリストと一緒に栄光の体に着替える日だというふうに考えてもおかしくありません。

霊的なことを言えば、キリストがよみがえられたので、罪によって音信不通であった神様との関係がいわば「交信可能」になったのです。

キリストは私たちの罪の代価を支払ったという言葉をよく使いますが、これは神様とのかかわりにおける霊的な面での代価です。

お金の有効性がまったく考えられない世界での問題です。イエス様は罪のない、霊的に曇りのないお方だからこそ私たちの身代わりに死に、霊的な代価を払うことができたのです。

そして、そのお方がよみがえられたということは、霊的な意味では、代価は神様を満足させたという

意味になります。もし、裁かれて、その代価が不満足、不十分なものなら「死」に縛られたままだったはずです。

でも、イエス様はよみがえられました。肉体的な死を打ち破り、神様の心を満足させたのです。

4) 光は闇の中に輝いている。

今ほど肉体的にも霊的にも「死」が恐れられている時代はないかもしれません。

死は現実的です。死が怖いのは肉体的な問題もありますが、死んでからどうなるんだろうということへの不安も必ずあるはずです。

聖書は「神に会う備えをしなさい。」と奨めています。アモス 4：12 参照。

神に会う備え、死によって人間は否応無しに神様に会う状況へと押し出されます。

罪の問題、不正や不義、そういう問題が心にあると、それは恐れをつくりだします。

普段あまり感じないかもしれませんが、考えないかもしれませんが、そういう心の中身があなたの表情を作り、そういう心の中身があなたの性格やあなたの立ち居振舞いを決定づけています。

霊的な問題が現実的なあなたのあり方に大きな影響を及ぼしているのです。

しかし、いのちなるキリストは、その暗闇を「光」として照らしておられます。

キリストが死なれたのはあなたの霊的な死を死ぬため、つまりあなたのこころの中身を神様の前であなたに代わって清算してくださるためでした。同時にキリストの死と復活は、私たちの肉体のいのちが、それだけで完結するものではなく永遠のいのちにつながる大事な大事なものだということを示すためでもありました。

光があるのです。希望の光があるのです。

死に対して「光」「いのち」が届けられています。

社会的にも、個人的にも、靈的にも死んでいる」
という自覚をもっているあなたに聖書は教えます。

ヨハネ 8：12

イエスはまた彼らに語って言われた。「わたしは、
世の光です。わたしに従う者は、決してやみの中
を歩むことがなく、いのちの光を持つのです。」
今年の復活祭があなたの復活のときでありますよ
うに。 祝福を祈ります。

+++++

It's Friday. But Sunday's coming

【今日は金曜日、しかし日曜日に来る、
関根一夫訳

金曜日、イエスは祈っていた庭で逮捕された。

しかし日曜日に来る。

金曜日、弟子たちは隠れ、ペテロは主を知ってい
ることを否定した。しかし、日曜日に来る。

金曜日 イエスはまるで殺される前の羊のように
沈黙したままイスラエルの大祭司の前に立った。

しかし日曜日に来る。

金曜日、イエスは殴られ、あざけられ、つばをか
けられた。しかし日曜日に来る。

金曜日、ローマの兵士たちは主イエスの肉体を金
属と骨で出来た鞭の先で痛めつけた。

しかし日曜日に来る。

金曜日、人の子はイバラの冠を額に無理矢押し付
けられてもしっかりそこに立っていた。

しかし日曜日は来る。

金曜日、カルバリの丘に向かう主を見よ。その身
体から血がしたたり、背負っている十字架の
重さが彼の背中を痛めつけ、押しつぶされそうに
なっている。

しかし日曜日に来る。

金曜日、ローマの兵士たちが主イエスの手と足に
釘を打ち付けている。

主の叫び声が響く。「父よ、彼らをお赦してください」
これは金曜日。

しかし日曜日に来る。

金曜日、イエスは十字架にかけられ、血まみれに
なり死んで行く。しかし日曜日に来る。

金曜日、空は暗くなり、地は震えます。罪を知ら
ない方が私たちのために罪となられた。

聖なる神は罪を放置することが出来ず、「わが神、
わが神、どうして私をお見捨てになったのですか」
と叫び声をあげる完全な犠牲の上に、神の聖なる
怒りをすべて落とされた。

なんという恐ろしい悲嘆の叫び。

しかし日曜日に来る。

金曜日、十字架での主イエスの死の瞬間に、罪あ
る人間と神との間のへだてと理解されていた

神殿の幕がまっぴたつに裂けた。

それはまさに日曜日に来るからなのだ。

金曜日、イエスは十字架にかけられ、天では嘆き
が、そして地獄では宴会が開かれていたに違いな
い。

しかし、それは金曜日。彼らは日曜日に来るこ
とをまだ知らない。

2000 年前、あの恐ろしいことが起こった。主イ
エス・キリスト、栄光の主、神のひとり子、
ただひとりの完全な罪のない人が十字架で死なれ
た。

悪魔は勝利したと考えたに違いない。神の御子を
破壊したと彼らは考えたことだろう。

エデンの園で預言されたあの言葉は実現しなかつ
たと彼らは思ったに違いない。

しかし、それは金曜日。

そして日曜日。

週の最初の朝早く、大きな地震があった。

もちろん、それが日曜日のすべてではなかった。

天使がやってきて墓の石を動かした。

日曜日が、来た。

主の使いは石の上に座り、遺体が盗まれることを

恐れて墓の番をしていた番兵は驚き逃げ去った。
日曜日が来た。

沈黙のうちに屠られるために引かれて行った子羊
は、ユダ族のライオンとしてよみがえられた。
み使いは、「その方はここにはおられません」と、
語った。彼はよみがえられた。

日曜日、十字架につけられたキリストはよみがえ
り、死と地獄と罪、そして墓を打ち破った。

日曜日が来た。 全てが、変わった。

恵みの時代になった。

誰でも十字架で死なれた神の子羊を信頼するなら
神の恵みが豊かに注がれる。

十字架で死なれたキリストが葬られ、よみがえら
れたと信じるなら神の恵みは無償で与えられる。

日曜日が来た。

今日はあなたにとって金曜日かもしれない。

しかし、あなたの人生にもキリストがよみがえら
れた日曜日がきっと来る。